

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

3-③

施策

持続的に発展する社会形成に向けて資源を有効に活用する循環型社会の実現を図る

担当部局

環境リサイクル局



【快 適】

めざまちの姿

リデュース(ごみの発生抑制), リユース(再使用), リサイクル(ごみの再生利用)が徹底され, 循環型社会が形成されている

市の基本方針

- 市民や事業者に対し, ごみの徹底抑制に向けた啓発に努めるとともに, 生産, 消費段階を含めた「ごみ」そのものの排出抑制への取組を支援します。
- 廃棄物の減量化・資源化及び適正処理に努め, 廃棄物の排出に伴う環境負荷の少ないまちをめざします。
- リデュース(ごみの発生抑制), リユース(再使用), リサイクル(ごみの再生利用)の3Rをより一歩進め, 不必要なものを購入しない(Refuse/リフーズ), 再生品の積極的使用(Regenerate/リジェネレート)を加えた5Rの推進に努めます。
- 事業活動に伴い生じる産業廃棄物の排出抑制, 循環的利用及び適正処理の推進を図ります。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
3Rを実践している人の割合	↑	市民アンケート調査で「3Rを実践していますか。」という設問に対して、『いつもしている』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 0.4ポイント上がり, 前年度に比べ, 2.2ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P35】</p> <p>(Ⅱ) 「いつもしている」「どちらかというとしている」を足した割合は, 60歳代が90.4%で全年代を通じて最も高い。一方, 20歳代の61.8%, 30歳代の69.8%の順に低い割合となっている。</p> <p>(Ⅲ) 「いつもしている」と回答した方の割合は目標より低い割合であるが, 「どちらかというとしている」を含めると81.8%である。3R実践の意識を持って生活しているが, 全ての場面で実践出来ていない方が多数いることが原因と考えられる。</p>
一般廃棄物の年間排出量(家庭系)(t)	↓	市で集計(毎年5月)
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 15,454トン減り, 前年度に比べ, 2,612トン減った。</p> <p>(Ⅱ) 家庭ごみのうち, 燃やせるごみが前年度に比べ, 約1,410トン減った。</p> <p>(Ⅲ) 平成21年度(基準値)以降, 順調に減少し, 平成30年度の目標値を下回っている。啓発活動等による各家庭での取り組みの拡大と, 電子機器の普及による, 紙類など資源ごみの流通量の減少等の社会的要因によるものと考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
一般廃棄物の年間排出量(事業系)(t)	↓	市で集計(毎年5月)
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、2,028トン増え、前年度に比べ、46トン増えた。</p> <p>(Ⅱ) 事業ごみにおいては、前年度に比べ燃やせるごみが201トンの増加、不燃ごみが111トンの減少、埋立ごみが44トン減少した。</p> <p>(Ⅲ) 平成21年度(基準値)以降、目標値を上回っている。景気回復や積極的な設備投資による事業所数や事業所規模の拡大により、事業ごみが増加したものと考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
リサイクル率	↑	算出式：総資源化量/ごみ総処理量(毎年6月に集計)×100 ※総資源化量とは、資源ごみ(5種14分別)＋施設資源回収量＋集団回収量
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、6.9ポイント下がり、前年度に比べ、2.1ポイント下がった。</p> <p>(Ⅱ) 総資源化量のうち、集団回収量が前年度と比較して、約1,209トン減少した。</p> <p>(Ⅲ) 資源循環型廃棄物処理施設である水島エコワークスにおいて、リサイクル率算定に計上されない平成30年7月豪雨災害で発生した災害ごみを受け入れたこと、また、上半期まで水処理設備の修繕を行ったことで家庭ごみの受け入れ量が減少したことが原因と考えられる。</p>

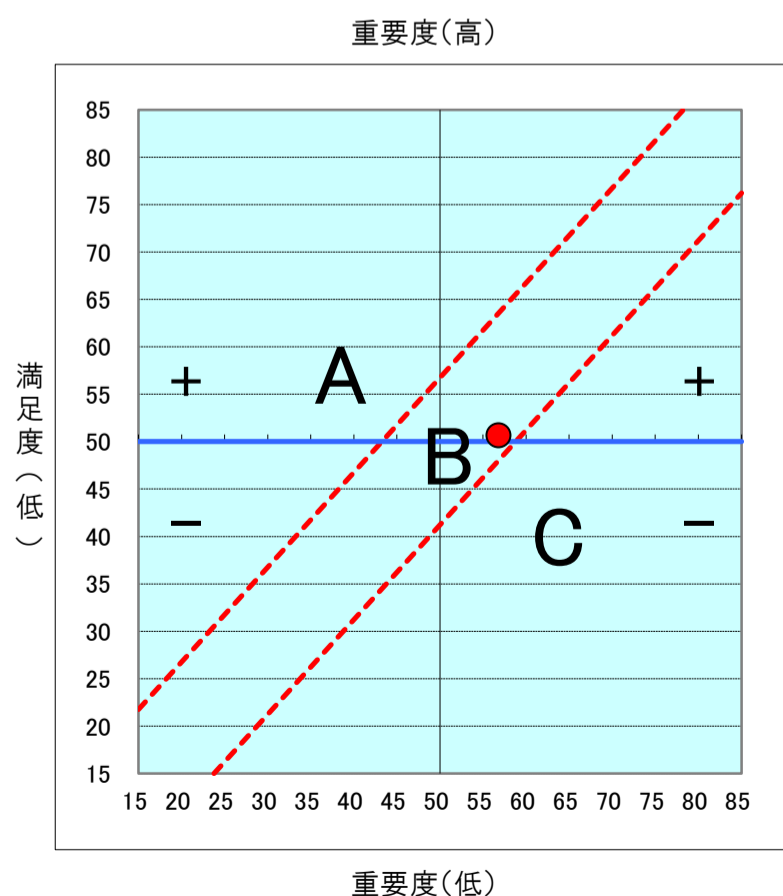
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
産業廃棄物の年間最終処分量	↓	市内の最終処分場からの報告に基づき、実際に埋め立てられた産業廃棄物のうち、排出元が倉敷市であるものを集計。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、496トン増加し、前年度に比べ6,158トン増加した。</p> <p>(Ⅱ) 平成24年度の大幅な減少のあとは増加傾向にある。</p> <p>(Ⅲ) 廃棄物の再資源化は進んでいるものの、海外の廃棄物輸入規制などもあり、今後も最終処分量は増加する可能性がある。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	生ごみ処理容器購入費補助事業	(Ⅰ) 一般家庭から排出される生ごみの再利用を図り、あわせてリサイクル意識の高揚及びごみ減量を促進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 電気式処理機103件、コンポスト97件、ぼかし容器39件の購入に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 販売店等にも協力を求めるなど、広く制度の周知を図りながら継続して実施する。	2,923
重	ごみの適正処理・減量・リサイクル啓発事業	(Ⅰ) ごみの資源化と適正処理の確保を目的に5種14分別を基本とした収集を行い、これらの効果を高めることを目的に各種啓発事業を実施した。 (Ⅱ) 市内12団体に対する出前講座や、マイバッグマイ箸作り体験ブースを出展した環境フェスティバル等で、啓発活動を行ったが、平成30年7月豪雨の対応を優先したため、10月に実施予定の「リサイクルフェア」や、毎月10日に実施しているマイバックマイ箸店頭啓発を7月以降中止にした。 (Ⅲ) ごみの適正処理・減量・リサイクルに関心を持つ方が更に増加するよう、内容を充実させながら継続して実施する。	275
	環境学習推進事業(再掲)	(Ⅰ) 市民に環境問題に関心を持ち、理解を深めてもらうことを目的として各種普及啓発事業を実施した。 (Ⅱ) 環境NPO・企業等と連携・協力し、座学形式のものや、フィールドにおいて実際に体験して学ぶ各種講座を58講座実施し、1,075人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	3,617

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	環境学習協働推進事業(再掲)	(Ⅰ) 専門的な知見を有する環境NPOと協働し環境学習を推進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 子ども向けから一般向けを含め15事業を実施し、470人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	27
	ごみ減量化協力団体報奨金事業	(Ⅰ) ごみの減量と資源ごみの再資源化を促進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 町内会・こども会・老人会等の1,003団体が事業を実施し、11,880トンの資源ごみを回収した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	71,630
	ペットボトル回収事業	(Ⅰ) ごみの減量とリサイクルによる資源の有効活用を目的に、スーパーの店頭やごみステーション等で回収したペットボトルを選別・圧縮し、再商品化事業者へ引渡した。 (Ⅱ) 再商品化事業者へ引渡すペットボトルを、リサイクル協力店103店舗とごみステーションから648トンを回収した。 (Ⅲ) リサイクル協力店の拡充を図るなど、継続して実施する。	74,402
	水島清掃工場管理運営事業	(Ⅰ) 安全で安定したごみ処理を目的として実施した。 (Ⅱ) 倉敷市の可燃ごみ96,437トンを焼却処理するとともに、発生する熱を使った発電を行い、工場内の電力をまかなったほか、余剰電力(19,403MWh)を売電することにより、エネルギーの有効利用を行った。また、定期的なモニタリングにより、安心して安定的な施設の稼働確認を行った。 (Ⅲ) 管理運営委託により、適正な運営を継続して実施する。	636,067
	資源循環型廃棄物処理施設運営事業	(Ⅰ) 安全で安定したごみ処理及び廃棄物の再資源化を目的として実施した。 (Ⅱ) 倉敷市が搬入する一般廃棄物等(可燃ごみ、焼却灰、下水汚泥70,408トンと水島エコワークス(株)の独自事業である産業廃棄物67,885トンを受け入れ混合処理し、全て精製合成ガス、スラグ等に再資源化することにより、循環型社会の推進に貢献した。また、定期的なモニタリングにより、安心して安定的な施設の稼働確認を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,908,639
都	白楽町ごみ焼却処理場等解体・整備事業	(Ⅰ) 白楽町ごみ焼却処理場等を安全に解体撤去し、自己搬入ごみの受入施設の整備を行うことを目的として実施した。 (Ⅱ) 白楽町ごみ焼却処理場等解体・施設整備工事を実施中。 (Ⅲ) 周辺への影響に配慮しながら、継続して実施する。	511,617
重都	(仮称)白楽町汚泥再生処理センター整備事業	(Ⅰ) 白楽町し尿処理場の老朽化に伴い、施設更新を行うことを目的とし、白楽町し尿処理場は解体撤去し、跡地に(仮称)白楽町汚泥再生処理センターの整備を行う。 (Ⅱ) (仮称)白楽町汚泥再生処理センターの生活環境影響調査業務その2(現況把握)を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,236
重都	(仮称)倉敷西部クリーンセンター整備運営事業	(Ⅰ) (仮称)倉敷西部クリーンセンターを整備し、一般廃棄物を安定的に処理することを目的として実施した。 (Ⅱ) 環境影響評価の現況調査業務、及び実施方針の作成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	98,632
	環境衛生改善事業費補助金交付事業	(Ⅰ) 倉敷市環境衛生改善地区が行うごみステーション整備等の事業を補助し、環境衛生の改善を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) ごみステーション整備109件、共同清掃用器具の購入108件等について補助を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	17,379

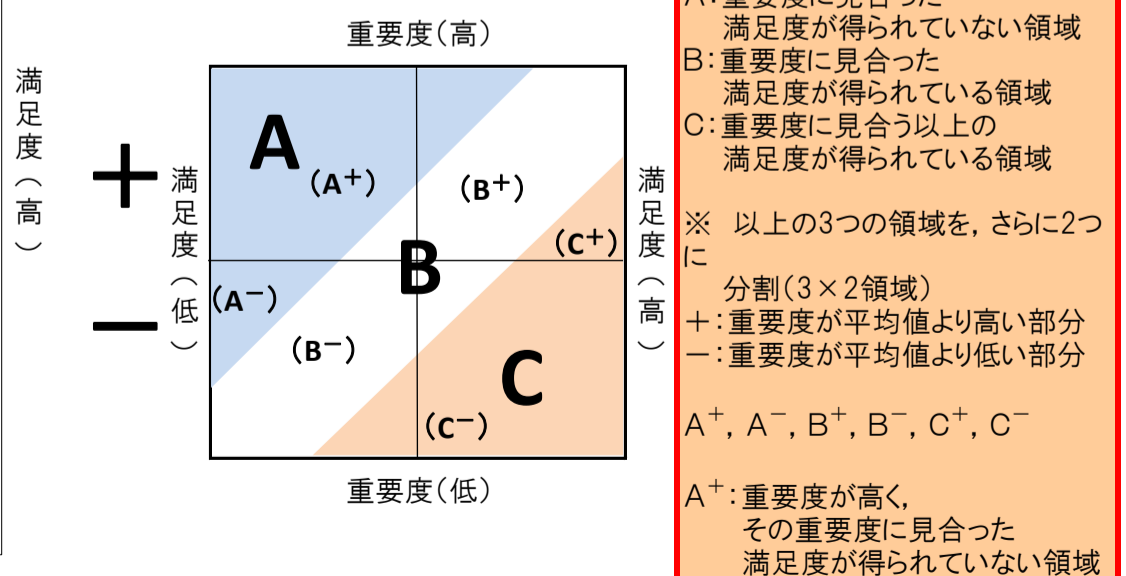
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁺	50.62	56.84

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より高い(+)

【グラフの見方】



課題

- 家庭ごみの減量には市民の協力が不可欠である。ごみ減量・リサイクル推進意識の高揚を目的に、出前講座や町内会・自治会単位で分別指導などの啓発活動を実施しているが、参加者には年代の偏りがある。特に若い世代への周知が必要である。
- 事業ごみについては、排出される可燃ごみに資源化物や産業廃棄物が混入している。適正排出が徹底されるよう指導や啓発を行い、ごみの減量を図る必要がある。

今後の取組み方針

- 一般廃棄物処理施設の中長期的な処理体制の構築について、課題を整理し、実現に向けて検討していく。
- 5Rの中でも2R(リデュース〔排出抑制〕、リユース〔再利用〕)を重視し、ごみの発生自体を抑制していく。また、若い世代に、ごみ減量の必要性を更に認識してもらい、実践してもらうような取組を実施する。
- 事業ごみ減量のため、排出事業所に対する分別指導を強化するとともに、収集運搬業者に対しても分別収集が確実に実施されるよう指導・支援を行っていく。